



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2014年(平成26年)10月25日号 No.1642

目次

■ アゼルバイジャンのスムガイト化学工業団地	1
■ モスクワほっとニュース	4
痒い！深夜の薬局珍道中／4	
■ 『ロシアNIS調査月報』2014年11月号のご紹介	6
■ トピックス	7
日通が舞鶴国際埠頭倉庫を竣工／7	
杏林製薬、ロシアでOABに関する基本契約／7	
双日と川重がトルクメン最大の肥料プラントを完工／7	

アゼルバイジャンのスムガイト化学工業団地

はじめに

去る9月30日、東京の如水会館において当会主催の「アゼルバイジャン・スムガイト化学インダストリアルパーク投資プレゼンテーション」が開催された。そこで本速報ではその様子をご紹介します。

プレゼンテーションではこの度訪日した専門家2人がスムガイト化学インダストリアルパーク(以後、SCIP)の概要やそこでの投資プロジェクトについて発表を行い、日本企業関係者など潜在的な投資家に対してその魅力をアピールした。また、その後の名詞交換も盛んに行われ、会場は活気に溢れていた。

SCIPの概要

SCIP 投資家関係・ビジネス支援部 副部長
S.ママトフ

アゼルバイジャンはコーカサス地方南部の国であり、面積は約8万6,000km²、人口は約900万人、首都はバクーである。アゼルバイジャンが独立国として最初に歴史上に現れたのが100年ほど前の1918年5月28日で、当時はアゼルバイジャン民主共和国と名乗っていた。しかしその後は何十年にもわたってソビエト連邦の一部となっている。そして、1991年10月18日に独立を宣言し、現在に至るまでの20年以上にわたって独立国として発展を続けている。90年代始めから日本との外交関係を樹立しており、1999年からは日本との間に経済委員会ができています。最近の成果としては、2014年2月26日に「第8回日本アゼルバイジャン経済合同会議」が東京で開催され、化学をはじめとする様々な分野において日本との関係を発展させることが決められた。